

## 保育のヒント～「科学する心」を育てる～

### トマト～疑問を解消するために～／西尾市立鶴城幼稚園（愛知県）

皆さんの園では、子どもたちと植物を育てる時、どのような環境の工夫をされていますか？

今回は、より美味しいトマトを作りたいという子どもたちの願いを保育者が受け止め、これを機に保護者や地域へと関わりが広がるように、保育の工夫をした事例をご紹介します。

自分で見つけたことや感じたこと、やってみて発見したことなどを、友達や家族、地域の身近かな人に伝え認めてもらったことで、「もっとやってみよう」と思う姿から、「科学する心」が育まれていくことが感じ取れます。



#### ● 甘いトマトを作りたい／5歳児

#### ✿ 念願のトマトは「すっぱい」トマト

- 自分たちで育てているトマトに子どもたちは毎日交代で水やりをしたり、生活の様子を見たりして、「実ができてきたね！」「こっちも赤ちゃんトマトがあるよ」「まだ緑色だから採れないね」と、収穫を楽しみにしていた。
- 6月、Aちゃんたちが、赤色や黄色になっているミニトマトを見つけ、みんなに知らせ、採って食べるようになった。
- 実際に食べてみると、子どもたちは思い思いの感想を言い始めた。

😊 Bちゃん：「なんか、中の汁がすっぱい」（赤いトマト）

😊 Cちゃん：「おいしいけど、ちょっとすっぱい」

😊 Eちゃん：「皮の所は甘いけど、中の方がすっぱかった」（黄色のトマト）

😊 Aちゃん：「お家で食べるやつはもっと甘いよ！なんですっぱいんだろうね？」

😊 Hちゃん：「Hのおじいちゃん、トマト育ててるよ！すっぱい所もあるけど、甘くておいしいよ」



- このように家での様子が話題になったので、保育者は子どもたちの思いに共感した。家と園のトマトの違いの話し合いから、保護者にどうしたら美味しいトマトが作れるのか、聞いてくることになった。
- 翌日、子どもたちは保護者から得た情報を伝え合った。

😊 Yちゃん：「お母さんが塩かけて食べると甘くなるって言った」

😊 Aちゃん：「ママが、雨がたくさん降って太陽が出てる日が少ないかもって言った」

😊 Hちゃん：「おじいちゃんのトマトは、もっと色が赤かった！」

😊 保育者：「そうなんだ！じゃあ太陽がたくさん出たら甘くなるのかな？」

😊 Aちゃん：「多分そうだと思う！」

😊 Bちゃん：「でも私の家のトマトだって雨降ってるのに、もっと赤くて甘かったよ」

😊 Yちゃん：「本当にそうなのか分からないから調べてみよ！」

😊 保育者：「どうやって調べたらいいかな？」

😊 Aちゃん：「トマトのことよく知ってる人に聞いてみる！」

😊 保育者：「じゃあトマト博士がいたら先生にも教えてね！」

## ✦ トマトのことをよく知っている人に聞いてみる？

- 7月、みんなでトマト博士を探していたところ、隣の小学校の校長先生が理科の先生だということを知った。さっそく、子どもたちは校長先生に、「トマトがおいしくなるにはどうしたらよいか」を聞きに行くことにした。

😊 Aちゃん：「校長先生、幼稚園のトマトはとってもすっぱいです。どうしたら甘いトマトになりますか？お水もあげているし、お日様もよく当たります。でも、すっぱいです」

😊 校長先生：「じゃあ栄養が足りないんじゃないかな。鶏糞をあげるといいと思うよ」

😊 Bちゃん：「鶏糞？」

😊 校長先生：「ニワトリの糞が栄養になるんだよ。それから、お水はあんまりあげない方がおいしいトマトになるみたいだよ」

😊 子どもたち：「何で？喉乾いちゃうよね」

😊 Cちゃん：「やっぱり、雨がたくさん降ったからすっぱかったんじゃない？」

😊 Dちゃん：「みんなで早くトマトができるようにいっぱいお水あげたしね」

😊 校長先生：「それから、甘いトマトの苗があるよ。そういう苗を選んだ方がいいよ」

- その後校長先生が、トマト作りが上手だという先生が持ってきてくれたおいしいトマトをみんなにご馳走してくれた。
- 給食後、校長先生の所へ行った子どもたちが、聞いてきた話をみんなに伝えることになった。

😊 Aちゃん：「お水をあげすぎるとよくないから、少なくするとよい」

😊 Bちゃん：「栄養に鶏の糞をあげるとよい」

- など話をし、校長先生がよく分かるようにと書いてくれた手紙を見せる。



## ✦ 鶏糞をあげよう

- 後日、「校長先生が、お水だけでなく、ニワトリの糞の栄養も入れるといいって言っていた」話が出る。子どもたちは、鶏糞が欲しいが園にはないため、園長に頼み、買ってきてもらった。子どもたちは鶏糞の袋を開けた。

😊 Dちゃん：「やったー！早くトマトにあげよう！」

😊 Bちゃん：「これが鶏糞？」

😊 Bちゃん：「うわっ！臭い！」

😊 Aちゃん：「どれー？うわっ臭い！」

😊 Eちゃん：「うげ、臭い！」「これどうやってやるの？」

😊 保育者：「先生も知らないんだよね。校長先生は何て言ってた？」

😊 Fちゃん：「えっとね、上からパラパラかけるって言ってたと思う」

😊 Oちゃん「うん、そう！そう！」

😊 保育者「じゃあ教えてもらったみたいにやってみて」

😊 Cちゃん「どうやるの？僕にも教えて」

😊 Dちゃん：「こんな臭いのあげてさ、トマトも臭くなっちゃったらどうしよう…」

😊 子どもたち：「えー！やだー！大丈夫かな」

- 子どもたちは、「臭いの食べたくないー！」など言いながら、鶏糞を混ぜた。

😊 園長：「色が付いたら食べてみてどうだったか教えてね」



## ✿ トマトの収穫

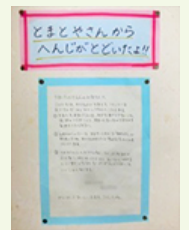
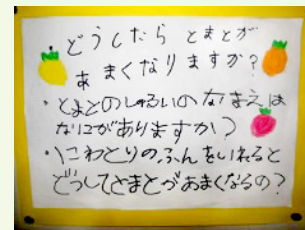
😊 Aちゃん：「トマト赤くなったよ。前より甘いよ」

😊 Bちゃん：「えー！本当？僕も食べる。甘い！」

😊 子どもたち：「何か前より赤い気がする。甘いよ。甘いよ」などと伝え合い、トマトが苦手な子どもも「おいしい！」と喜ぶ姿が見られた。



- 後日、校長先生からおいしいトマトを作っている農園のことを知った子どもたちの希望により、農園でできたトマトを購入し、みんなで試食することになった。「サクランボみたい！真っ赤っ赤！」「イチゴみたいな色してる」「なんか汁はすっぱいけど、皮のところ甘い！」「わたし、トマト嫌いだけどもう食べちゃった！」などの声が聞かれた。
- そこで、どうしたらこんなに甘いトマトができるか、FAXで農園に聞いてみることになった。そして、数日後返事が届いた。



## ✿ 活動を振り返って

- 子どもたちは、実をつけたことでトマトに興味をもち、食べてみたら思っていた味と違ったことで、さらに興味を深めていった。
- どうしたら甘いトマトができるかという疑問を保育者が受け止め、この機会に保護者や学校へと関わりが広がる工夫をしたことで、子どもたちは諦めることなく、甘いトマトを作ろうと意欲をもち、自分たちができることを考えたり、試したりする姿につながった。
- 「なぜ、どうして？」と思ったことを試行錯誤しながら、諦めず甘いトマト作りに取り組んできた。
- 子どもたちが「もっと～してみたい」「～したらどうなる？」と考えようとする姿から、「科学する心」の育ちを感じた。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」